

「光州5・18」は2007年公開の韓国映画で、1980年5月に光州市民がチョンドゥファン軍事政権に命を賭けて抵抗した蜂起戦を描いています。40年前5月27日の学芸大、午後の講義が始まる前の教室で特殊教育研究部のO君が「講義をボイコットし、韓国民衆に連帯して韓国大使館へ抗議に行こう！」と演説しました。熱く訴える彼の言葉に心が揺さぶられ、講義をサボって韓国大使館デモに生まれて初めて参加しました。この日以降紆余曲折はありますが闘う私の人生が始まり、当時光州市民が歌ったプリパ（根っこ派）の一節「膝をついて生きるよりは 立ったままで死のうじゃないか」は座右の銘になりました。何で5月27日のデモだったのか心の片隅にずっと引っかかっていたのですが、この映画を観て親友O君の熱き思いを悟ったのでした。あの日から40年、私は佐野川の畑で雑草・野生動物と闘い続けています。



・春の茶仕事

和田茶園は茶草場農法で大豆殻・藁等有機資材を畝間に敷き詰め、鶏糞・豚糞・油粕・米糠等有機肥料を施しています。年末に猪が茶樹の根元を掘り起こし、2月下旬まで穴埋め作業をしました。木の下に潜って盛り上がった土を崩し、むき出しになった根を埋める作業で、毎日作業着と体は泥だらけです。つらい仕事でしたが、蔓草の地下茎をついでに抜き取ったのでこの夏の草取りは楽になるかもしれません。穴埋めが終わると春肥・春整枝作業と忙しい日が続きました。3月の佐野川は15日と29日に雪が降りました。どちらも雨交じりの雪で、葉層の薄い茶園で雪の重みに押しつぶされた箇所を元へ戻す作業に数日かかりました。



世間ではコロナウイルス感染症が猛威を振るって緊急事態宣言が出され、相模原市も防災放送で人との接触を避けるよう連日呼びかけています。生き物相手の農家はテレワークより野良仕事が最優先です。一番茶摘採間近の藤野茶業部役員はマスクをして新芽の出開き度を調べ、連休中も摘採日程を相談しています。今年も美味しい佐野川茶を消費者の皆様にお届けできるよう全力で準備していますので、新茶を楽しみにお待ちください。



・花卉栽培

佐野川は畑に防護柵を設置しても猪が突き破り猿はよじ登って侵入してくるので、野菜の収穫は期待できません。茶・雑穀に続く栽培品目に花卉を選びました。ガサツな私ですが、農業高校に勤めていた頃は食品製造部門を担当した1年間以外はずっと草花部門で花苗作りをし、失職後に2年間パート勤めした県立植物園でも花壇に植える花苗作りが仕事でした。生業としての花卉栽培は施設を使い栽培適期の数か月前に播種・育苗するので、温度管理や病害虫防除に細心の注意を払います。育苗施設を持たない私は育てやすい一年草を栽培し、切り花出荷を目指す事にしました。

昨秋孫娘農園と名付けた菜園に苗床を作り、カレンジェラを播種しました。100本程できた苗は順調に育ち、きれいな花を咲かせています。ご近所や親しい友人に差し上げていたのですが、藤野で毎月開かれるピオ市に初出店し販売する事にしました。5月ピオ市はコロナウイルス感染防止対策で無人販売でしたが、早朝収穫したカレンジェラはたくさんの方に買っていただき感激です！



前号で報告した新しい花卉畑は相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会実行委員会の仲間に動物防護柵修理をお願いし、自宅でアスター・ヒマワリの育苗に取り組んでいます。軽トラ荷台を作業場にしてプラグトレイに播種、ベランダに並べて毎日灌水しています。



・雑穀街道普及会改め、雑穀栽培活動2020

3/15発行「植物の人々の博物館メールマガジン」64号に記されたように、藤野では雑穀街道普及会活動の見直しが必要となりました。黒澤君と相談していますがINCHとして雑穀街道普及会の在り方が定まるまで、上岩雑穀畑の様子は雑穀栽培活動として報告します。

2月の醤油仕込みワークショップ、6日・9日・16日・24日と醪の手入れを小まめに行いました。参加者と相談し、3月からは第1日曜日午前9時から手入れをしています。左は2/6、右が5/3の醪です。醤油になる様子、何回見てもワクワクします！



雑穀畑では麦が順調に育っています。茶の収穫が終わったら雑穀植え付けます。